

絶対、合格できない原因を探る 国家試験不合格になった受験者の傾向

- 原因その1. 試験問題（日本語文）を、読み理解できる力がない人
- 原因その2. 試験時間内で、問題を全て読み解く力がない人
- 原因その3. 漢字用語（専門用語）を、読み理解する力がない人
- 原因その4. 日本語の文末表現を、理解する力がない人
- 原因その5. 専門領域の知識を、理解して習得していない人

原因の解析 その1

試験問題（日本語文）を、読み理解できる力がない人。

- ★ 日常の会話は多少の問題があってもでき、周囲の日本人も意思疎通ができるために、十分、国家試験問題も読み理解できると思い込んでいる場合に、このような人が多くいます。言語には、「音声言語」と「文字言語」との二つの領域があり、「音声言語領域」でいかに巧みに日本語を使いこなせていても、「文字言語領域」では全く違った言語力が必要とされます。よって、「文字言語領域」での言語能力を高める学習をしっかりとしていない限り、国家試験問題を読み理解することは不可能です。
- ★ また、日本語文を読むことができて、その文の意味や文脈を理解する力がない限り、「ただ単に日本語文を読む」という表面的な作業だけであり、その日本語文の意味理解をして読むとは異なったものです。即ち、【文を読めても、意味が分からない読み方】の傾向がある人も、合格できない領域に入ります。この項目の原因は、「文字言語領域」での日本語の【規則性と用法に対する理解力】が身につけていないためです。

原因の解析 その2

試験時間内で、問題を全て読み解く力がない人。

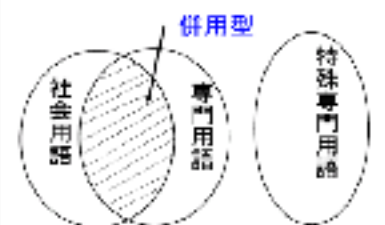
- ★ 外国人にとって、国家試験問題が三種類の文字、即ち、ひらがなとカタカナと漢字で作られており、限られた時間内で全問読み解き、答えを導き出すことは非常に困難なことです。これらの文字に対する認知力と認識力は、基礎教育段階においてしっかり身につけておくべきものですが、以外に、外国人の特徴としてカタカナ文字に対する認知・認識力は不十分な人が多くいます。また、漢字に対しては和語漢字、漢語漢字、さらに、和漢漢字（訓読み+音読み、音読み+訓読み）があり、これらの熟語漢字に対する読み方と言葉の意味を理解するためには、非漢字圏である外国人にとっては、非常に困難なことです。
- ★ 試験問題に対応するためには「文意と文脈」を読み取り、選択文の中から正しく記号選びをすることは、正しい言語能力が必要です。時間内で全問を解く能力は、特別な訓練【読解する瞬時反応訓練】を基礎教育段階からしっかりと受けていない限り、この瞬時反応力を養うことは不可能です。
- ★ 「外国人のマークシート形式における解答傾向」では、瞬時反応訓練を受けていない人と受けた人の差が歴然としていることが判明しています。即ち、「訓練を受けている人」の場合には、選択文を理解した上で解答しているので正解率が高く、そして、時間内で全問解答する能力を身につけています。しかし、「訓練を受けていない人」の場合では、正しい解答率が低いと同時に、全問解答率も低くなって、中には「適当に記号を選ぶ傾向」が顕著に表れているのが特徴です。この項目の原因は、【瞬時反応訓練を受けているか、否か】につきると言えます。

原因の解析 その3

漢字用語（専門用語）を、読み理解する力がない人。

- ★ 国家試験の目的は受験者とその専門領域に対して、どの程度正しい知識を持っているかを問う試験です。このことを大前提として考えれば、「専門用語に対して読めない、理解していない」と言う受験者であれば、当然ながら、知識不十分として不合格になるのは当たり前のことです。
 - ★ 試験問題に使われている用語は、図1のように分類できます。まず、第一分類では社会用語、第二分類として、専門用語とに分類でき、特に第二分類の専門用語では、社会用語として使う場合と、専門用語として使う場合とでは意味が大きく異なります。
- この併用型の専門用語が外国人にとっては、一番理解できない用語となりますが、専門特殊用語では外国人にとってもその領域の特殊用語であるために、対訳で習得したりしても十分理解できる言葉です。
- ★ 多くの不合格者は、ある程度の専門知識を持っていながら、第二分類の併用型の用語を正しく文意や文脈によって理解できないために、試験問題の問題点を正しく把握できず、間違った解答を選択文から記号選びすることになります。しかしながら、質問文や選択文が特殊専門用語だけで書かれている文に対しては、その正確率は高くなり、結果として合格率を高めることができます。
 - ★ 今までの国家試験問題の中で、多くの外国人受験者が「難しかった・分からなかった」などという感想を述べている領域は、特に、日本の特殊事情を含めた設定文問題でした。このことを考えると、社会用語と専門用語の併用型の漢字語彙に対して理解が不十分だったことを表しています。この項目の不合格となる原因は、教える側が社会用語と専門用語、並びに、特殊専門用語の分類を不十分なままで、ただ単に【言葉の暗記を主とした教育指導】をした結果と言えます。

図1、国家試験漢字用語分類



原因の解析 その4

日本語の文末表現を、理解する力がない人。

- ★ この項目に該当して不合格となった受験者の最大の弱点は、【日本語文の規則性に対する理解が不十分】であったと言えます。即ち、日本語文の特徴は、他の外国語と異なり、「文の意味（文意）は文末の表現で決定する」という規則性を知らないままに、ただ単に文の中にある語彙を連ねるだけで文意としてしまう傾向にあります。
- その結果、質問文を理解して選択文の記号選びをする段階で、質問文と異なる選択文を正しい答えとして導き出した結果、不合格となります。
- ★ 図2にまとめたように、過去の国家試験問題の文末表現を整理すると、日本人にとっては決して難しい表現方法ではないことは明らかです。しかし、外国人にとっては日本語文の構造に対する規則性の理解が不十分である限り、文末の述語表現を正しく理解できないために、間違った解答選びをする傾向が非常に強いことが特徴です。

図2、国家試験文末表現の種類

適切なもの	適切でないもの	最も適切なもの
正しいもの	正しくないもの	最も正しいもの
誤っていないもの	誤っているもの	最も誤っていないもの
該当するもの	該当しないもの	最も該当するもの
最も必要性が低いもの	必要なもの	最も必要性が高いもの
最も優先度が低いもの	優先度が高いもの	最も優先度が高いもの

- ★ 受験者の模擬試験用紙などを観察すると、上記のことに注意するために、文末の記述部分に下線などを引く人が数多く見られます。その結果、下線引きをしていながら、間違った答えを導き出している人が想像以上に多いです。
- これは、国家試験対策の「受験テクニック」で強く注意を促されているために、「質問文の文意を正しく読み取るのではなく、文末述語の表現だけに注目」して選択文を選んでいますが、はっきり分かります。

- ★ このような傾向が全国的にあることは、「受験テクニック」

だけを中心に学習して、本来の目的である専門知識の習得から逸脱した学習が行われていることを表しています。この状態では、いくら時間をかけても、合格率が上がらないと言えます。

原因の解析
その5

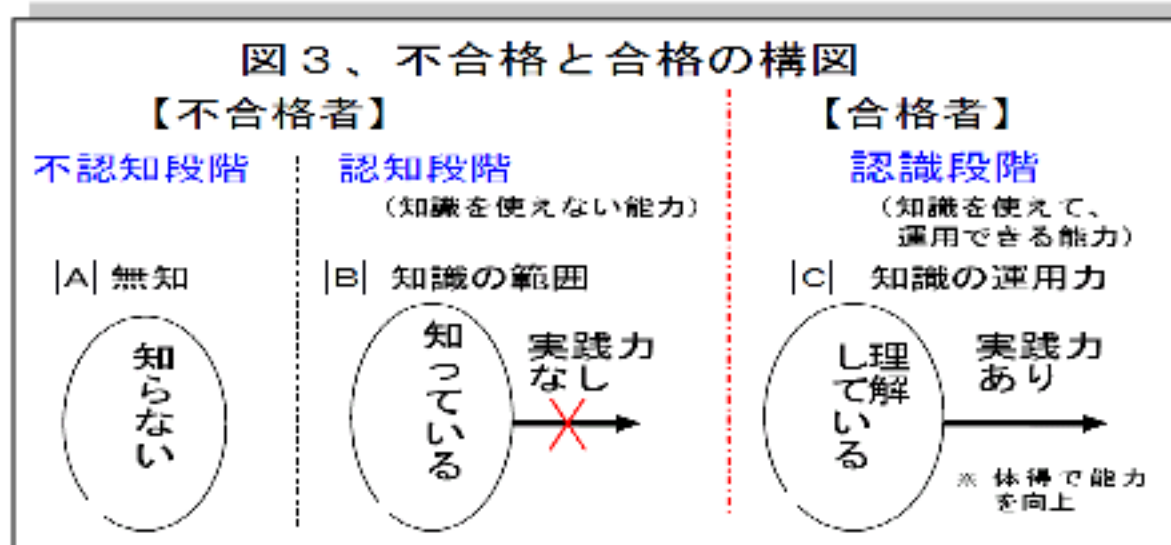
専門領域の知識を、理解して習得していない人。

- ★ 国家試験に臨むためには、「専門領域に対する知識をただ単に、知るだけでなく、その知識の内容を理解した上で、実践力に結びつく理解力が必要」とされます。

なぜならば、質問文を読み理解して選択文が平均して5文あり、その中から正しい答えを導き出すことを求められているからです。そして、選択文では一つの事例の答えとして類似した答えが4文あり、正しいものを判断するために混乱をさせるように作られています。

その結果、理解を伴っていない単なる知識だけでは、正しい答えを導き出すことができず、「自信を持った解答ができない」ままに、選択文を選ぶこととなります。

- ★ 図3を見れば分かるように、「専門知識を知っている」の範囲では、その事柄の認知段階にしか過ぎず、「その事柄の内容まで理解していない」ために、単なる認知の範囲に留まった知識になります。この傾向が強い受験者の学習方法は、多くが「過去問解き学習法」であり、多くの過去問題を解くことによって、【問題の解答を覚える作業】をしているにしか過ぎないものです。よって、この学習方法では理解を伴わないために、不合格者を多く出す結果となっています。



- ★ それに対して、理解をした専門知識を持っている受験者の場合は、「ただ単なる認知の段階の知識ではなく、事柄の内容を理解した上での認識」であるために、習得した知識は国家試験合格だけでなく、現場での業務遂行能力に必要な実践力を身につけることとなります。また、マークシート形式の試験ではなく、記述式の試験であっても専門知識に対する認識段階の理解があるために、十分に正しい記述をすることができる能力を備えています。

- ★ 国家試験に対応できる能力を養うためには、【日本語の規則性とその用法、並びに、運用方法を学び、日本語文での専門書を学ぶ】ことが、遠回りのようで実は最も合格をするための近道です。この項目で不合格の原因は、【「過去問題解き中心の学習法」と、「専門用語丸暗記法」にある】と言え、この状態から脱皮しない限り、合格することは決してないと言えます。しかし、万が一にも合格できたとしても、「現場での実務能力がないために戦力となりえない」と断定できます。

【解決方法】 ★ 現在の状況では、客観的に見て不合格にならざるを得ない施設が多くあります。

その中で、原因5項目のうち、3項目に該当するものがあれば、早急に改善しないと不合格になります。

★ 5項目のうち2項目にだけ該当するものがある場合には、その該当項目を中心に改善することで合格できる可能性が生じます。この結果は、来年の1月には合格・不合格が判明しますので、それまでに下記の要点に対して改善の必要があるものは改善し、合格への要因を高めることが大切です。

- ①規則性と用法に対する理解力を養うこと ②瞬時反応訓練を受けること ③言葉の暗記を主とした教育指導をしないこと ④質問文の文意を正しく読み取るのではなく、「受験テクニック」の文末述語の表現だけに注目しないこと ⑤「過去問題解き中心の学習法」と、「専門用語丸暗記法」をしないこと

あなたの实力を見る「10分間テスト」

★ この問題を全問正解できれば、国家試験受験能力あり！！

解答を弊社までお送り頂ければ、採点をして簡単な考察を返送します。

今後の受験対策に考察結果を役立てて、合格できるよう、ご活用下さい。

施設名：	受験者名：
FAX：	メール：

() 読 1

1-1) 「認知症」の読み方をカタカナ文字で () に書きなさい。 認知症

- 2) レビー小体型認知症の症状の特徴として、① パーキンソン症状 ② 鮮明で具体的な内容の幻視
③ 初期からの人格変化 ④ 症状の日内変動 ⑤ 転倒しやすいが考えられるが、この中で適切で
ないものを一つ選びなさい。

() 読 2

2-1) 「知能指数」の読み方をカタカナ文字で () に書きなさい。 知能指数

- 2) 長谷川式認知症スケールに関する記述「① 知能指数 (IQ) で評価する。 ② 心理症状、行動
障害に関する質問から成る。 ③ うつ状態の有無を知ることができる。 ④ 記憶、見当識、計
算などに関する質問から成る。 ⑤ 点数 (得点) が高いほど重症である。」のうち、適切なもの
を一つ選びなさい。

() 読 3

3-1) 「物忘れ」の読み方をカタカナ文字で () に書きなさい。 物忘れ

- 2) Dさん (80歳、女性) は、数年前から物忘れが多くなっている。 一人息子は遠方におり、長く
夫と二人暮らしをしていた。 半年前に夫が亡くなり、現在のDさんは、夫が亡くなったことを
嘆いていたかと思うと、別の日には夫が帰ってこないと心配して、近所を歩き回るといった状況
である。 今回、グループホームに入所することになった。 入所後の生活支援として、たびた
び面会に来るよう息子に連絡する。 ② 夫の位牌や仏壇は息子に預かってもらう。 ③ 一人に
ならないよう、常に見守る。 ④ 家具の配置は掃除のしやすさを優先する。 ⑤ 家事等に参加
できる機会をつくり、役割をみつける。」などがあるが、最も適切なものを一つ選びなさい。

() 読 4

4-1) 「妄想」の読み方をカタカナ文字で () に書きなさい。 妄想

- 2) アルツハイマー型認知症の初期の段階で起こることとして、「① もの盗られ妄想 ② 幻視 ③
反社会的な行動 ④ けいれん発作 ⑤ めまい」などが考えられるが、この中で最も可能性の
高いものを一つ選びなさい。

() 読 5

5-1) 「生産活動」の読み方をカタカナ文字で () に書きなさい。 生産活動

- 2) 地域包括支援センターに関しては「① 地域の介護支援専門員が抱える支援困難な認知症事例につ
いて直接対応する。 ② 精神保健福祉士の配置が義務づけられている。 ③ 通所している認知症
の人に創作的活動や生産活動を提供して、社会との交流を促進する。 ④ 成年後見制度の活用促進
や消費者被害の防止に取り組む。 ⑤ 近隣の住民から要請で、近隣の住宅に無断侵入する認知症の
人を施設に入所させる手続きをする。」などが挙げられるが、このうちで適切なものを一つ選びなさい。

施設の声

「10分間テスト結果を参考に指導！！」

- 入職してすでに半年以上過ぎたが、日本語学習をどのように進めていけば良いのか、手探り状態で指導している。今まで何人も受け入れてきたが、残念ながら一人も合格できなかった。今後は是非とも合格者を出したいために、10分間テストを受ける機会を得たので、すぐに受験した。
- 試験結果は、具体的に能力が数値で表されているので、今後の指導の目安にしたいと思った。
- 現在の受験者の状態は、残念ながら専門用語が入った会話になると、どうしても意思疎通ができない。また、日頃の会話はワンワードになったり、センテンスになったり入り混じった不十分な会話だ。受験者は書く能力が低いので、頂いた「学習計画」の見本通りに進められるか分からないが、今後の学習指導の参考にして、合格を目指したいと思う。
(宮城県・S施設)

「教育効果を出すことができない 介護専門学校！！」

- 毎回、候補者を受け入れると同時に、日本語も指導してもらえる介護専門学校に、全員通学させている。EPAが始まってから毎年受入れてはいるが、まだ合格者を一人も出せていないので、今のやり方を見直さなければと考えている。
- 受験者の学習意欲も高まらず、高い費用を支払っているわりには、教育効果に対して具体的な報告もない。毎月送られてくる月報は参考にしてはいるが、どうしたら良いものか。こんな状態では、また次回も合格者が出ないのではないかと、あきらめている。
(神奈川県・B施設)

「落ち続けているのになぜ、 学習方法を変えないの？！」

- 今まで受入れた人数は、すでに5名以上にも達してしまっただけなのに、一人も合格者を出していない。教育担当者としては、この状態を見て何とか合格者を出すために努力しているが、率直に言って、具体的にどのような指導をして良

「月報を施設長が知らずに後悔！！」

- 自分が指導しているわけではなく、教育担当者をつけて、受験者には学習指導をさせていたが、今まで一人も合格できていない。その結果、学習の進み具合や上達具合は正直、把握できていなかった。月報で細かい情報を頂いていたが、御社が実施している試験制度についても、報告されておらず、担当レベルでは知っていたようだったが、私自身が全く把握できていなかった。
- もっと早くに気がついておれば、合格するための方策を施設内でうてたかもしれないと、強く反省している。これからは、送られてくる月報を読んで、合格するための具体的な学習をさせなければ、受け入れた意味がないと考えるようになった。

(大阪府・Y施設)

「国家試験問題を本当に 理解した上で解けるのか！！」

- いつも月報を参考にしている。来年、受験を控えている候補者が二名いるが、レベルの差が多少あるので、個別で対応したりしながら能力の差を補っている。
- 入職当初から日本語教師に指導を任せていたが、8月からは専門の職員をつけて本格的に、試験対策を進めていく予定でいる。日本語は大丈夫であることが前提で指導していく予定でいるが、合格するためには、国家試験問題を本当に理解した上で、解けるかが最大の問題だと思っている。

(静岡県・I施設)

いのが全く分からないでいる。

- この現状を改善するために、上司に再三再四に渡って訴えているが、理解してもらえず、雇っている日本語教師がいるので「現状のままで良い」という言葉が返ってくるばかりだ。
- 全国の施設の中で、うちと同じような状態があるのか、是非とも教えてほしい。合格者を出さない受け入れは、どんなメリットがあるのかがよく分からないでいる。

【国家試験受験能力到達度試験】参加のおすすめ

- 1、受験者には試験結果に基づき、考察票（言語能力到達度）にあわせて学習指導をしますので、担当者が客観的な「考察票評価」に基づいて現状を把握することができます。
さらに、担当者が考察票の指導方法に基づいて具体的な学習指導ができるために、その結果、受験者の言語能力が向上します。
- 2、言語能力の到達度チェックは、2ヶ月単位に到達度数値を見ることが大切です。
常に、受験者の言語能力の変化を定期的に観ることで、国家試験受験能力の向上を促すことができます。今後、受験勉強と同時に、職域での実践力がある人材育成を目指すことが重要です。
そのためにも、【国家試験受験能力到達度試験】を受けることをおすすめします。
- 3、受験対策は、国家試験過去問題だけに偏ることなく、過去問題以上の難易度の高い試験問題に対応できる能力を養うことが、国家試験合格率を高めることとなります。この理由から、本試験のEレベル～国試3レベルまでは、国家試験問題よりも高度な問題作成となっていますので、必然的に合格率の可能性が高まるように作られています。
- 4、最も大切な言語能力は、日本語の基礎言語能力（初回～Dレベル）です。この段階の到達度が目標数値を越えれば、国家試験受験能力はほぼ達成できるように作られています。

【国家試験受験能力到達度】試験と【教材】申し込み書		<送付先：FAX 03-6677-0632>	
施設名/病院名：		ご担当者名：	
所在地：〒			
電話：	FAX：	メールアドレス：	
<受験人数> 名			
<受験者の国籍> インドネシア（ 名） フィリピン（ 名）			
※ 下記の料金は受験者1名あたりの金額です。該当するレベルを○で囲んで下さい。			
<単発受験>			
初回・レベルA・B・C・D・E・F・国試1・2・3 @20,000円 × 名 合計金額 円			
※ 考察のみで、電話やメールでの指導相談は行いません。			
<継続受験>			
初回から全10回（教材費・考察指導料込み） 190,030円 × 名 合計金額 円			
※ 継続受験については、電話やメールでの指導相談を随時、行っています。			

★ 教材のおすすめ 下記の教材は、受験者が自分で日本語の【規則性と用法・運用能力】を養うことができる自学教材です。特に、国家試験問題に対して必要な「読解力」が養えます。

※ ご希望の教材の冊数を（ ）内に必ず、ご記入下さい。

100万人の日本語No.1（ ）冊	ひらがなかーど（ ）冊	漢字のーと1（ ）冊
100万人の日本語No.2（ ）冊	ひらがなのーと（ ）冊	漢字ノート2（ ）冊
100万人の日本語No.3（ ）冊	カタカナノート（ ）冊	

お申込書が届きましたら、一週間以内に教材をお届け致します。教材到着後、三日以内に同封しているお振込み先にお支払い下さい。送料は着払いにさせていただきます。

ことばの研究社 〒164-0002 中野区上高田 3-2-13 石田ビル 303

電話：03-6317-6009 FAX：03-6677-0632 メール：kotobaken@yahoo.co.jp

